


授業科目名	医療行動学 (Behavioural Science in Medical Learning)		
対象学年	1年生	単位数	2単位
科目責任者	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
科目 コーディネーター	はすめま なおこ 蓮沼 直子	所属	医学教育センター
授業方法	10月～1月の間に、講義、グループワーク、医療面接・診療技能修得のための実習、研究室・病院実習を行う。		
概要	<p>本科目でめざすのは、「よい医師であるためには何を持っていなければいけないかを考え、それを得るために、6年間の在学中に自分が何をすればよいかを考え、計画する」ことである。そのために、医師の仕事に関わるいろいろな要素にスポットを当て、実際に医師のさまざまな仕事や医療現場を見学・体験する。本科目を通じて、6年間の医学生生活のなかで、何を達成することをめざし、そのために自分が何をやるのかを、じっくり考えてもらいたい。</p>		
到達目標	<p>よい医師となるために必要な能力、資質について自らの考えを述べるができる          医師に必要な資質を身に着けるために、在学中に自分が何を学ぶか計画することができる          医療におけるコミュニケーションスキルの重要性を説明し、実践できる          地域医療、医療安全、漢方医学など様々な分野について医療における位置づけを説明できる          人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる          適切な言語・非言語コミュニケーションスキルを身に着け、活用できる          医療人類学や医療社会学等の行動科学・社会科学の基本的な視点・方法・理論を概説できる          アカデミックライティング：課題について、ルールに従ってわかりやすく書くことができる。また適切にピア評価を行うことができる。          実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。          R4. 改訂版医学教育モデルコアカリキュラムとの関連</p> 		
講義日程	講義は対面で行う。実習はグループ単位で実施する。別途通知する日程を参照のこと。		
出席の取り扱い	講義や実習については、原則すべてに出席すること。Teamsでの掲示板討論を行う場合は、所定の回数書き込みを行うことを単位認定の要件とする。講義の出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが、講義中のプロダクトの提出、その他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。		
評価項目	講義・実習で行ったこと、学んだこと、感想を実習ごとにレポートに記載し提出する。その内容を評価する。また、グループワークのプロダクト、ピア評価も評価対象となる。講義・実習における積極性、態度も評価される。		
評価法	Forms、講義レポート、実習レポート、グループワークのプロダクト、ピア評価を加算のうえ、総合点で評価する。6割以上で合格とする。		
予習・復習へのアドバイス	当日のうちに講義内容やグループワークの気づきをまとめ、「これからの学びにどう活かすか」などを整理しましょう。		
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 特になし		